

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	千葉大学
設置者名	国立大学法人千葉大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信	406		98	504	13	
文学部	人文学科	夜・通信			482	888	13	
法政経学部	法政経学科	夜・通信			289	695	13	
教育学部	学校教員養成課程	夜・通信			820	1226	13	
理学部	数学・情報数理学科	夜・通信			27	433	13	
	物理学科	夜・通信			35	441	13	
	化学科	夜・通信			40	446	13	
	生物学科	夜・通信			91	497	13	
	地球科学科	夜・通信			73	479	13	
工学部	総合工学科	夜・通信			334	740	13	
情報・データサイエンス学部	情報・データサイエンス学科	夜・通信			17	423	13	
園芸学部	園芸学科	夜・通信			184	590	13	
	応用生命化学科	夜・通信			65	471	13	
	緑地環境学科	夜・通信			148	554	13	
	食料資源経済学科	夜・通信			55	461	13	

医学部	医学科	夜・通信			55	461	19	
薬学部	薬学科	夜・通信		61	171	638	19	
	薬科学科	夜・通信			55	522	13	
看護学部	看護学科	夜・通信			174	580	13	
(備考) ・情報・データサイエンス学部は令和6年度に新規設置され完成年度は令和9年度を予定している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

千葉大学ホームページ内のシラバス関連のコンテンツを掲載したページにおいて公開する。 (URL: https://www.chiba-u.ac.jp/academics/course/index.html)
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	千葉大学
設置者名	国立大学法人千葉大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

千葉大学ホームページ https://www.chiba-u.ac.jp/about/management/administrative_staff.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	独立行政法人 審議役（前職）	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	総務・財務・施設 （事務局長）
非常勤	弁護士（現職）	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	法務
非常勤	株式会社代表取締役 （現職）	令和6年4月1日 ～ 令和8年3月31日	経営・基金
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	千葉大学
設置者名	国立大学法人千葉大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
シラバスを全科目において作成するとともに、各回の授業内容をはじめ、科目の到達目標、授業形態、授業外学習の内容及び成績評価の方法・基準等を記載し、千葉大学ホームページで公開する等の方法で学生に周知している。	
授業計画書の公表方法	千葉大学ホームページ https://www.chiba-u.ac.jp/academics/index.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 『千葉大学の教育・研究』に対する意識・満足度調査」や授業評価アンケート（部局ごと）等の調査を行い、学習成果の把握や授業改善を進めている。 また、卒業論文、卒業研究等の卒業時の学習成果の把握に加え、大学負担により TOEFL 試験、 TOEIC 試験を受験する機会を設けている。加えて、初修外国語検定において一定以上のスコアを単位認定要件とするなど、外部試験を利用した取組みも実施している。	
3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績管理については、G P A制度を全学的に導入することにより、学生に対するきめ細やかな履修指導、学生自身による学習習熟度の把握等に活用している。 《概要》 秀：4.0、優：3.0、良：2.0、可：1.0、不可：0と換算し、それぞれに修得単位数を乗じた合計数を、総履修登録単位数で割る。(最大4.0)	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	千葉大学ホームページ https://www.chiba-u.ac.jp/academics/files/pdf/kubun_gpa_1.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

大学における学位授与の全学方針と、これに即した各学部における学位授与の方針とを定め、すべてを WEB により公開を行うとともに、毎年度見直しを実施している。

また、卒業の認定においては卒業要件単位修得状況等の確認を、教務委員会・教授会等にて実施している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

千葉大学ホームページ
<https://www.chiba-u.ac.jp/academics/policy/degree.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	千葉大学
設置者名	国立大学法人千葉大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/finance.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/finance.html
財産目録	—
事業報告書	https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/finance.html
監事による監査報告(書)	https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/finance.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:第4期中期目標、第4期中期計画	対象年度:令和4~9年度	)
公表方法:本学HPへ掲載		
https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/plan.html		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学HPへ掲載(7.学校教育法第109条に基づく自己点検・評価)
https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/index.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:本学HPへ掲載(8.認証評価に関する評価結果)
https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/index.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法：千葉大学ホームページ https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/teaching/list.html ）
（概要） 本学は教育基本法に則り、広く知識を授け人格の陶冶を図るとともに、深く専門の学芸を教授研究し、大学院においては、学術の理論及び応用を教授研究してその深奥を究め、以て文化の進展に寄与する有為な人材を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：千葉大学ホームページ https://www.chiba-u.ac.jp/academics/policy/degree.html ）
（概要） 千葉大学は、「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、以下を修得した学生に対して、学位を授与する。 「自由・自立の精神」 ・自立した社会人・職業人として、自己の設定した目標を実現するために自ら新しい知識、能力を獲得でき、自己の良心に則り社会の規範やルールを尊重して高い倫理性をもって行動できる。 「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」 ・自己の専門領域の社会的、文化的位置づけを理解し、自己の専門的能力を地球社会と地域社会の持続可能でインクルーシブな発展のために役立てることができる。 ・自己の国際経験を生かし、広い視野から社会に貢献することができる。 「普遍的な教養」 ・国内外の多様な文化・価値観、社会、自然、環境について深く理解し、文理横断的・異分野融合的な知を備え、人類や社会が直面する課題について主体的な認識と判断力をもって取り組むことができる。 「専門的な知識・技術・技能」 ・専門領域に関して体系的に修得した知識・技術・技能をもとに、直面する状況における問題解決に向けた実証的・論理的思考を展開し、イノベーション創出につなげることができる。 「高い問題解決能力」 ・専門領域の事項も含めて、他者と考えや情報を共有する能力を有し、それに基づいて協調・協働して行動し、主体的学修を通じて問題解決に取り組み、解決の方向性を提案することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：千葉大学ホームページ https://www.chiba-u.ac.jp/academics/policy/curriculum.html ）

(概要)

「自由・自立の精神」

- ・ 学生が自ら設定した目標の達成に向けて、継続的に自己を評価・検証しつつ主体的な学修を可能とする教育課程を編成し、提供する。
- ・ 専門職業人として自立するための倫理教育を行うとともに、教育課程全般の修学にわたり、社会の規範やルールを尊重する姿勢を涵養する。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」

- ・ 幅広い視野の醸成、批判的精神の涵養、豊かな教養に裏打ちされた全人的な人間性の陶冶を目的とする普遍教育を提供するとともに、専門導入教育を充実し、それらを基盤として学生が自己の専門領域を修得する意義を理解できる学修機会を提供する。
- ・ 諸課題が地球規模となる時代に対応した学修環境を整備し、地球規模の課題を解決する能力を涵養するために、多様な留学の機会を提供する。同時に、地域を支える人材育成に取り組む。
- ・ 学内外で継続的な学修を促進するために、情報通信技術を活用した学修基盤を提供する。

「普遍的な教養」

- ・ 国内外の多様な文化・価値観、社会、自然、環境を深く理解し、文理横断的・異分野融合的な知を備え、人類や社会が直面する課題に取り組む普遍教育科目を体系的に提供する。
- ・ 普遍教育と専門教育をつなぐ横断的な学修機会を提供し、全学的な副専攻を充実させる。

「専門的な知識・技術・技能」

- ・ 専門領域での必須事項を段階的・体系的に修得できる教育課程を編成し、提供する。
- ・ 修得した専門領域での知識、論理的思考や表現の手段を、学生が主体的に活用できる実践的な学修の機会を効果的に提供する。
- ・ 社会に貢献し、知識集約型社会を牽引するイノベーション創出のための学修環境づくりを進める。

「高い問題解決能力」

- ・ 英語を中心とした語学教育においては、専門教育とも連携した発信型のコミュニケーションを学修する機会を提供する。
- ・ 専門領域にかかわらず、情報通信技術の活用も含め、必要な情報やデータを適切に収集・分析・活用する方法を修得し、情報を適切に発信することのできる学修の機会を提供する。
- ・ 学生が、グループを単位として、専門領域での問題解決に主体的・能動的に取り組む学修の機会を提供する。
- ・ 専門領域での問題に関して、社会の要求を踏まえた問題解決を実践できる学修の機会を提供する。

「学修成果の厳格な評価」

- ・ 学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。また、成績評価を透明かつ公平に行うため GPA 制度を採用するとともに、事前・事後学修の明示や履修登録単位数の上限設定等により、単位の実質化をはかる。

- ・講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- ・実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：千葉大学ホームページ
<https://www.chiba-u.ac.jp/admissions/gakubu/adpolicy.html>）

（概要）

1 千葉大学の求める入学者

千葉大学は、総合大学として多様な研究・教育組織から構成されており、その知的環境を十分に利用して、問題解決能力を培い、創造的能力を育み、自発的な精神を養い、社会と文化の発展とともに、人類の平和と地球環境の保全に貢献する人材の育成を目指しています。

千葉大学は『つねに、より高きものをめざして』の理念のもと、次のような向上心あふれる人の入学を求めています。

1. 現代社会を生きていく人間として欠くことのできない国際的、倫理的、知的な素養を備え、さらに向上させていこうとする熱意を持つ人
2. 本学での修学について強い好奇心、関心を持ち、問題について自発的に探求し、問題解決の能力を高めていこうとする意欲を持つ人
3. 本学入学後の修学に必要な基礎学力として十分な知識・実技能力を持つ人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：千葉大学ホームページ（運営組織_組織図）
<https://www.chiba-u.ac.jp/about/index.html#headline-1693876731>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	11 人	—					11 人
教育学部	—	43 人	37 人	0 人	8 人	0 人	88 人
大学院	—	271 人	215 人	60 人	181 人	1 人	728 人
附属病院	—	15 人	17 人	37 人	168 人	0 人	237 人
その他	—	61 人	58 人	24 人	102 人	0 人	245 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		1, 353 人					1, 353 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：千葉大学ホームページ https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/teaching/index.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学では、全学の教育機能強化及び学修・学生支援を目的とする国際未来教育基幹の下に位置づけられる 高等教育センター質保証・FD 部に「質保証・FD 推進専門委員会」を設置し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）の企画・推進に関する全学的な取り組みを行っている。主な取り組みとしては、 (1) 全学 FD 研修会の企画・実施 (2) 各学部・研究科等が実施する部局別 FD の計画策定支援、モニタリング、評価 (3) FD の推進に資するコンテンツの作成・提供 があげられる。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際教養学部	90 人	90 人	100%	360 人	389 人	108%	0 人	0 人
文学部	170 人	178 人	105%	700 人	767 人	110%	10 人	7 人
法政経学部	360 人	374 人	104%	1, 460 人	1, 594 人	109%	0 人	0 人
教育学部	380 人	383 人	101%	1, 540 人	1, 622 人	105%	0 人	0 人
理学部	200 人	204 人	102%	800 人	882 人	110%	0 人	0 人
工学部	540 人	547 人	101%	2, 440 人	2, 629 人	108%	60 人	59 人
情報・データサイエンス学部	100 人	102 人	102%	200 人	205 人	103%	0 人	0 人
園芸学部	190 人	201 人	106%	760 人	827 人	109%	0 人	0 人
医学部	117 人	120 人	103%	702 人	715 人	102%	0 人	0 人
薬学部	90 人	92 人	102%	460 人	480 人	104%	0 人	0 人
看護学部	80 人	80 人	100%	320 人	340 人	106%	0 人	0 人
合計	2, 317 人	2, 371 人	102%	9, 742 人	10, 450 人	107%	70 人	66 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際教養学部	96 人 (100%)	3 人 (3.1%)	83 人 (86.5%)	10 人 (10.4%)
文学部	176 人 (100%)	24 人 (13.6%)	141 人 (80.1%)	11 人 (6.3%)
法政経学部	344 人 (100%)	22 人 (6.4%)	291 人 (84.6%)	31 人 (9.0%)
教育学部	369 人 (100%)	51 人 (13.8%)	306 人 (82.9%)	12 人 (3.3%)
理学部	191 人 (100%)	134 人 (70.2%)	50 人 (26.2%)	7 人 (3.7%)
工学部	646 人 (100%)	497 人 (76.9%)	125 人 (19.3%)	24 人 (3.7%)
園芸学部	190 人 (100%)	94 人 (49.5%)	88 人 (46.3%)	8 人 (4.2%)
医学部	127 人 (100%)	0 人 (0.0%)	123 人 (96.9%)	4 人 (3.1%)
薬学部	91 人 (100%)	44 人 (48.4%)	47 人 (51.6%)	0 人 (0.0%)
看護学部	75 人 (100%)	7 人 (9.3%)	67 人 (89.3%)	1 人 (1.3%)
合計	2,305 人 (100%)	876 人 (38.0%)	1,321 人 (57.3%)	108 人 (4.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
進学先：千葉大学大学院、東京大学大学院、筑波大学大学院など 就職先：千葉大学医学部附属病院, 千葉銀行, 千葉県庁、日立製作所、東京都庁、NTT データグループ、NTT ドコモ、日本 IBM など				
(備考)				
進学者数は大学院、学部、短期大学、専攻科、別科、専修学校・外国の学校等を集計。 就職者数は自営業、無期雇用、有期雇用（雇用期間 1 か月以上）、臨時労働者、臨床研修医を集計 その他は就職準備中、進学準備中、不詳・死亡、その他（どれにも属さない者）を集計。 進学者のうち就職もしている者は進学者数のみでカウントし就職者数、その他には含めない。 (%) は卒業者数に占める割合（小数点以下第二位四捨五入）。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
国際教養学部	91 人 (100%)	75 人 (82%)	15 人 (16%)	1 人 (1%)	0 人 (0%)
文学部	176 人 (100%)	145 人 (82%)	24 人 (14%)	7 人 (4%)	0 人 (0%)
法政経学部	369 人 (100%)	298 人 (81%)	65 人 (18%)	6 人 (2%)	0 人 (0%)
教育学部	390 人 (100%)	343 人 (88%)	42 人 (11%)	5 人 (1%)	0 人 (0%)
理学部	204 人 (100%)	170 人 (83%)	25 人 (12%)	9 人 (4%)	0 人 (0%)
工学部	628 人 (100%)	516 人 (82%)	89 人 (14%)	23 人 (4%)	0 人 (0%)
園芸学部	201 人 (100%)	176 人 (88%)	21 人 (10%)	4 人 (2%)	0 人 (0%)
医学部	122 人 (100%)	113 人 (93%)	7 人 (6%)	2 人 (2%)	0 人 (0%)
薬学部	96 人 (100%)	89 人 (93%)	4 人 (4%)	3 人 (3%)	0 人 (0%)
看護学部	82 人 (100%)	71 人 (87%)	8 人 (10%)	3 人 (3%)	0 人 (0%)
合計	2,359 人 (100%)	1,996 人 (85%)	300 人 (13%)	63 人 (3%)	0 人 (0%)

（備考）
・2021 年度入学者を対象として集計。ただし、医学部、薬学部薬学科については 2019 年度入学者を対象として計上した。
・編入学者は集計対象外とした。除籍者は中途退学者に含めた。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要） 各学部・学科・コース等にて開設する授業科目、授業の開講期、曜日時限、各回の授業内容や方法をシラバスに掲載し、年間の授業計画とともに冊子等も通じて周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要） 成績管理については、GPA 制度を全学的に導入することにより、学生に対するきめ細やかな履修指導、学生自身による学習習熟度の把握等に活用している。 また、卒業の認定においては、卒業要件単位修得状況の確認を、教務委員会、教授会等にて実施している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	⑦・無	単位

文学部	人文学科 行動科学コース	124 単位	⑦・無	単位
	人文学科 歴史学コース	124 単位	⑦・無	単位
	人文学科 日本・ユーラシア 文化コース	124 単位	⑦・無	単位
	人文学科 国際言語文化学コ ース	124 単位	⑦・無	単位
法政経学部	法政経学科	124 単位	⑦・無	単位
教育学部	学校教員養成課程 小学校コース	130 単位	⑦・無	単位
	学校教員養成課程 中学校コース	130 単位	⑦・無	単位
	学校教員養成課程 小中専門教科 コース	130 単位	⑦・無	単位
	学校教員養成課程 英語教育コース	130 単位	⑦・無	単位
	学校教員養成課程 特別支援教育 コース	130 単位	⑦・無	単位
	学校教員養成課程 乳幼児教育コース	130 単位	⑦・無	単位
	学校教員養成課程 養護教諭コース	130 単位	⑦・無	単位
理学部	数学・情報数理 学科	126 単位	⑦・無	単位
	物理学科	133 単位	⑦・無	単位
	化学科	134 単位	⑦・無	単位
	生物学科	126 単位	⑦・無	単位
	地球科学科	127 単位	⑦・無	単位
工学部	総合工学科 建築学コース	130 単位	⑦・無	単位
	総合工学科 都市工学コース	130 単位	⑦・無	単位
	総合工学科 デザインコース	130 単位	⑦・無	単位
	総合工学科 機械工学コース	130 単位	⑦・無	単位
	総合工学科 医工学コース	130 単位	⑦・無	単位
	総合工学科 電気電子工学 コース	130 単位	⑦・無	単位
	総合工学科 物質科学コース	130 単位	⑦・無	単位
	総合工学科 共生応用化学 コース	130 単位	⑦・無	単位
	総合工学科 情報工学コース	130 単位	⑦・無	単位

情報・データサイエンス学部	情報・データサイエンス学科 情報工学コース	130 単位	⑦・無	単位
	情報・データサイエンス学科 データサイエンスコース	130 単位	⑦・無	単位
園芸学部	園芸学科	124 単位	⑦・無	単位
	応用生命化学科	124 単位	⑦・無	単位
	緑地環境学科	124 単位	⑦・無	単位
	食料資源経済学科	124 単位	⑦・無	単位
医学部	医学科 (一般枠)	193 単位	⑦・無	単位
	医学科 (地域枠)	193 単位	⑦・無	単位
	医学科 (研究医枠)	197 単位	⑦・無	単位
薬学部	薬学科 (6 年制)	187 単位	⑦・無	単位
	薬科学科 (4 年制)	129 単位	⑦・無	単位
看護学部	看護学科	124 単位	⑦・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：千葉大学ホームページ

<https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/teaching/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
国際教養学部	国際教養学科	535,800 円	282,000 円	0 円	令和2年3月以前 に1年次に入学し た学生
文学部	人文学科				
法政経学部	法政経学科				
教育学部	学校教員養成課程				
理学部	数学・情報数理学科				
	物理学科				
	化学科				
	生物学科				
	地球科学科				
工学部	総合工学科				
園芸学部	園芸学科				
	応用生命化学科				
	緑地環境学科				
	食料資源経済学科				
医学部	医学科				
薬学部	薬学科（6年制）				
	薬科学科（4年制）				
看護学部	看護学科				

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
国際教養学部	国際教養学科	642,960 円	282,000 円	0 円	令和2年4月以降に 1年次に入学した 学生
文学部	人文学科				
法政経学部	法政経学科				
教育学部	学校教員養成課程				
理学部	数学・情報数理学科				
	物理学科				
	化学科				
	生物学科				
	地球科学科				
工学部	総合工学科				
情報・データ サイエンス学 部	情報・データサイエ ンス学科				
園芸学部	園芸学科				
	応用生命化学科				
	緑地環境学科				
	食料資源経済学科				
医学部	医学科				
薬学部	薬学科（6年制）				
	薬科学科（4年制）				
看護学部	看護学科				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 外部の奨学金の他に大学の基金に基づく奨学金および経済的理由などにより入学料や授業料を納入することが困難な学生に対し、入学料や授業料の全額または一部を免除及び徴収猶予する制度を設けている。 なお、日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者又は在学採用で給付奨学金の申込予定である入学者に対し、入学金及び前期分授業料等の徴収を、奨学金の選考結果が出る7月頃まで猶予している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生の進路ニーズを踏まえた進路選択を支援するため、進路指導やキャリアサポートの一環として、就職ガイダンス、就職相談、就職試験対策、職業紹介などを実施している。 また、キャリア教育も実施しており、現役の企業人による講義や職場体験を取り入れた実習科目を卒業要件科目（普遍教育 教養展開科目）として開講している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 例年、4月初旬に新入生全員に対して「キャンパスライフと健康ガイダンス」を行い学生生活における諸注意や相談窓口等の案内をしている。 また、下記の相談業務等において、カウンセリングや支援方法等の検討を行っている。 ・メンタルヘルス相談 ・学生相談（なんでも相談） ・障害学生支援相談

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：千葉大学ホームページ https://www.chiba-u.ac.jp/about/disclosure/teaching/index.html 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。
--

***総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み（様式任意）**

【回答】

入学後の文理横断型の教育、複線的・多面的な学びとしては、専攻分野以外の幅広い知見に触れ、国内外を問わず社会で活躍する人材に必要とされる能力や素養を体系的に身につけさせることを目的とし、全学副専攻プログラムとして「国際日本学」「ローカル・イノベーション学」「数理・データサイエンス教育プログラム」「環境サステナビリティ実践学」を展開している。また、イシューベースの教育プログラムとして、喫緊の社会課題の解決や社会実装に資する積極性及び主体性を備えた課題解決型人材を育成することを目的とし、バンチプログラムとして「国際日本学」「地域づくり」「地域イノベーション」「地域実践」「数理・データサイエンス・AI 基礎コア」「環境サステナビリティ実践学」「日本語学習支援実践プログラム」を展開している。

全学的なデータサイエンス教育としては、令和2年度より数理・データサイエンス教育を必修化し、全学的な数理・データサイエンス教育を推進している。さらに、全学副専攻プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」を開始している。「数理・データサイエンス教育プログラム」は、数理・データサイエンスに関する基礎的な教養をベースに、専門的な数理・データサイエンスを極めることにより、数理・データサイエンスに係る知識を活用し、社会の問題を解決できる人材を育成することを目的とした普遍教育科目と専門教育科目を横断する全学共通のプログラムである。令和7年度入学者からは5つの学部で、プログラムの必修科目である「データサイエンスB」を、卒業要件上の必修科目とし、より多くの学生が履修しやすい環境を整えた。

なお、提言を受けての入試科目の見直しはないが、国際教養学部においては、一般選抜の出題教科・科目を「国語または理科」、「数学または地歴」を選択できるようにしており、文理横断型の選抜を取り入れている。

また、全学のアントレプレナーシップ教育を一体的にマネジメントするとともに、グローバル・アントレプレナー人材を育成することを目的として、令和7年4月に「アントレプレナーシップセンター」を設置した。本センターでは、本学がこれまで実施してきたグローバル人材育成と課題解決型人材育成、ならびにイノベーション創出人材育成の融合を軸として、「社会課題からバックキャストして課題解決を行うアントレプレナー人材の育成」を目指す。そのために、学内組織に分散して実施されている授業を体系的なアントレプレナーシップ教育プログラムとして編成し直すとともに、新たに実践的講義や海外アントレプレナーシッププログラムを導入し、総合知の活用による、「教養」、「グローバル」、「実践」を意識したアントレプレナーシップ教育を推進している。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F112110102337
学校名（〇〇大学 等）	千葉大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	国立大学法人千葉大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		535人（ ）人	530人（ ）人	572人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	297人	274人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	141人	154人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	75人	75人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	22人	27人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－（ ）人
合計（年間）				582人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	16人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	-	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	21人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	-	人	人
G P A等が下位4分の1	63人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	63人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。